

令和元年度 第2回 JSSR 安全医療推進委員会

令和元年 11月15日(金) 於 つくば国際会議場 3階 303号室

出席者(敬称略)

高相晶士, 今釜史郎, 西田康太郎, 村上英樹, 小西宏昭, 奥田眞也, 湯川泰紹, 折田純久

1. 報告事項

JSSR 理事会からは特に本委員会に関わる特記事項報告はなかった。

2. 検討・確認事項

脊椎脊髄手術に関する安全情報の発信について (JSSR HP, 広報委員会)

- ・ JSSR HP (リニューアル済) 上に掲載スペースは確保済み
- ・ JSR 掲載予定論文は最終版の掲載待ちの状態である
- ・ 合併症情報の発信においては法人の種類により扱いが異なるため確認が必要である (一般社団法人である当会は対象が会員であるため, 有益情報としての発信となる。公益社団法人は一般市民の益が対象であり, 合併症情報の発信は必ずしも求められない)。順次安全情報を掲示する方針。

今後の合併症調査の進め方について

- ・ 回収率を上げるためのパイロット調査は現在延期中 (倫理審査の問題から)。
- ・ JSSR において合併症をはじめとするデータをこれから収集するのであれば JOA レジストリ構築との兼ね合いも検討するべきであり, JSSR で求められるのは JOA による概要的なものと脊椎インストゥルメンテーション学会 (JSIS) のレジストリによる詳細なデータの間層 (合併症など) である
- ・ JOA レジストリの本来の目的は整形外科手術件数の記録と厚労省への提示が主であり, 本来であれば合併症発生についてはあまり重視されていない。しかし JSSR により提出された合併症についてのまとめはデータが古くなっておりそろそろ更新が必要である。
- ・ 案としては JOA レジストリの中から脊椎手術に関するデータを抽出, データを追加する方針も提案されたが, まだレジストリが軌道に乗っていないため見通しは不明であり JSSR の求めるデータが揃うかも不明瞭。加えて評議員を対象にした試行でも実施率は 60%程度。専門スタッフの雇用なども要することから体制の完備を待つのは時間がかかる。しかし JSSR 単独で行うにはスケールが大きいことから JSIS のデータを流用するのが現実的か

脊椎手術におけるレベルエラー調査 の提案について

川口善治 富山大学教授からの実施に関する問い合わせについて。
アンケート草案配布の上で議論が行われた。

委員から出た指摘は以下の通り

- ・レベルエラーの定義は何か，はっきりしない（展開は含むのか，椎弓を切除し始めたら，など．仮に皮切を本来よりも少し頭側においた，等まで含めると頻度はかなり高くなってしまう）．
- ・JSSR のサポートについて理事会に諮る．実際にはアンケート送付の際の名簿の参照や JSSR 名義（もしくは共催）でのアナウンスを念頭に置くものであり金銭的なサポートをするわけではない．
- ・どのように広報するかは要検討：センセーショナルにマスコミに広報されてしまう可能性がある．英語論文として学術論文として発表するのは良いが，安易に HP 等に掲載するべきではない．また他科や一般人にとっては「レベル間違い」を非常に重篤なものとなってしまうことがあるため，公表も念頭に置いた定義や説明の仕方も吟味する必要がある．公表の際に JSSR の名を含めるかも要検討．基本的には会員への注意喚起が目的であり，協力した会員へのフィードバックの意味合いもある．
- ・「アンケート」とすると回答率が下がる可能性がある
- ・項目 12 「どの段階でレベルエラーに気づいたか（術中，麻酔中，抜管後，帰室後）」については扱いに注意が必要．
- ・十分にデータが集まったところで川口先生に説明をしていただくことを検討（4月の次回会議など．川口先生に打診）．

次回開催について（予定）

2020 年 4 月 17 日（金）am7-8 時（JSSR 学会名古屋）